

26. 洗浄中の再汚染とその防止とについて

お茶の水女子大 松川 哲哉

1. 疎水性合成繊維の量産，綿布等の発水加工の進展に伴い，一方には洗たく中での再汚染（洗浄液中からの汚れの再沈着）が問題ともなり話題ともなっている。この実情を少しでも明らかにすると共に，その防止法を家政学的な立場から考えようとした。

2. 各種の洗剤液中に汚れ成分が溶出している中へ，各種の試験布を浸漬し，その白度の低下率をもって汚染度を比較した。人工汚れ成分としては，主として日本油化学協会案（油脂化学便覧，p. 654，丸善，1958）によったが，天然汚れの洗浄液も使用して，それらの差異を検討した。

3. 洗剤として非イオン界面活性剤を用いる場合が，各繊維についていずれも再汚染防止の効果が高いが，これに次ぐのは通常のコソリンであり，石油系，高級アルコール系ともに普通の合成洗剤はこれに劣る。しかも汚れに油質成分が加わると，これらの合成洗剤中では再汚染が進む傾向をもち，やはりポリエステル繊維やアクリル繊維にその差を認めやすい。種々の高分子化合物を汚染液中に共存させると，再汚染率はかなりの低下を示すが共存濃度の効果は割合に少なく，昨年度本学会で発表した「高分子塗布洗浄法」の経過と考え合せ，これらの高分子化合物は再汚染防止よりもむしろ洗浄の作

